

第11回ジュニアヨットクラブジャンボリー 実施報告書

実行委員長 竹腰真紀子

1. はじめに

新緑が鮮やかな季節を迎え、ゴールデンウィークの2023年5月3日～5日の3日間にわたり、第11回ジュニアヨットクラブジャンボリーを、茨城県行方市で開催いたしました。昨年同様、茨城県行方市の霞ヶ浦天王崎公園を会場に、茨城県セーリング連盟と麻生ヨットクラブとの共催のもと、茨城県行方市、茨城県ボート協会、株式会社水郷ボートサービスのご協力など、多くのご支援やご協力をいただきました。なお、宿泊は北浦の茨城県立白浜少年自然の家を利用し、楽しく充実した3日間の活動を無事に終了することができました。

2. 概要

日程：2022年5月3日（憲法記念日）～5日（子どもの日）

場所：水上活動は茨城県行方市天王崎公園、宿泊は茨城県立白浜少年自然の家

実施機関：

主催 一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下JJYUという）

共催 茨城県セーリング連盟、麻生ヨットクラブ

後援 茨城県行方市

協力 茨城県ボート協会、株式会社水郷ボートサービス

目的とねらい：

- ①共同生活により、青少年の心身の育成を図ります。
- ②環境保全を目的として、自然と親しみ大切に維持する心を養います。
- ③2泊3日の共同生活にて、たくさんの友達を作ります。
- ④保護者およびコーチ間の交流を深め、ジュニアヨットクラブ活動の改善や指導技術の向上に役立つようにします。

3. 参加者及び使用艇

今回は、5クラブより、子ども14名（男性6名、女性8名）、指導者・保護者14名、麻生ヨットクラブ（延べ37名）、JJYU役員6名による活動となりました。

参加クラブと人数：

葉山町セーリング協会	子ども 9名	指導者・保護者 11名
茨城ジュニアヨットクラブ	子ども 1名	保護者 1名
江東区立小中学校セーリング部	子ども 1名	保護者 1名
YMFS ジュニアヨットスクール葉山	子ども 1名	保護者 1名
一般社団法人日本海洋アカデミージュニアヨットクラブ	子ども 2名	JJYU 関係者 1名

使用艇：OP、ミニホッパー、シーホッパー、シカラ、テーザー

運営艇：麻生ヨットクラブ 本部船（定員6名）、クルーザー（定員8名）

B&G ゴムボート（定員 4 名）
株式会社水郷ポートサービス 和船（定員 14 名）

4. 実施内容

□ 5月2日（火）

JYU、麻生ヨットクラブ担当者により、翌日からのジャンボリー開催の最終打ち合わせを行いました。

□ 5月3日（水、憲法記念日）

五月晴れの爽やかな初日を迎えることができました。8:30より受付を開始し、10:00に天王崎公園の麻生ヨットクラブ前の砂浜において、昨年に引き続き行方市の鈴木市長にご臨席いただき、開会式を開催しました。麻生ヨットクラブの内田代表、そして行方市の鈴木市長よりご挨拶をいただきました。また、選手たちを赤チーム（6名）、青チーム（6名）の2チームに分けて活動することを説明いたしました。



開会式終了後に、各自艦装を整えて、順次出艇し、活動を開始しました。霞ヶ浦の風を確かめるようにセーリングを行い、水上で軽食をすませた後、OPによる水上運動会を行いました。最初の種目は、玉入れです。水上に巻いたアヒルのおもちゃを拾って、運営艇の網に入れます。1ゲームめは引き分け、2ゲームめと3ゲームめは、それぞれのチームがポイントをとったので、4ゲームめで決着をつけることとしましたが、4ゲームめも引き分けとなりました。次の種目は、リレーです。赤チーム、青チームに加えて、おとなチームも編成しました。リレーは、砂浜から出艇して、本部艇をまわって、再び砂浜に戻り、次のスキッパーに交替します。子どもたちのチームとおとなチームの抜きつ、抜かれつの接戦でしたが、おとなチームが沈をして、一位 あおチーム、二位 あかチーム、三位 おとなチームとなりました。

15:30に活動を切り上げて、宿泊施設である茨城県立白浜少年自然の家に、各自、移動しました。到着後の入所式では、館長から、自分のことは自分で行う、使用したものはきちんと片付ける、他の利用者にも気遣いをするなど、共同生活を送る際の注意事項や寝具の管理などについて説明をうけました。その後に部屋割りの発表があり、各自、荷物をもって部屋に入りました。



その後、すみやかに入浴を行い、全員そろっての夕食です。毎回、食事の最初と最後の挨拶を、子どもたちが分担しました。そして、19:00から、ミーティングおよび、クラブ間の交流や情報交換を目的に、食堂で懇親会を開催しました。子ども同士も、枕投げをしたりして、交流を深め、22:00に消灯、就寝しています。

□ 5月4日（木、みどりの日）

6:30 起床

7:00 つどいの広場でラジオ体操

今日は、セーリングピクニックとして、OPで遠征を行うため、少し早めの7:15から、朝食を摂りました。その後、各自、活動開始の準備を整えて天王崎公園に向かいました。晴れ渡る空に心地よい風の吹く絶好の活動日和です。今日は、子どもたちは、セーリングピクニック、おとなとヨットに乗らない子どもたちは、漕艇ボート体験です。天王崎公園から、目的地である潮来市立ボートセンターあめんぼまで、約7mile（約11km）あります。漕艇ボート体験チームは、和船で先行します。OPチームも追いますが、風の弱いところや風の向きが変わることもあり、よく考えながらセーリングをしなければなりません。道中、法政大学モーターボート・水上スキー部によるデモンストレーションを観覧しながら、あまり遅くなるわけにいかないため、往路は全艇を一部曳航することとなりました。



12:00すぎに、無事到着して、漕艇ボート体験チームと合流して、昼食を摂りました。漕艇ボート体験では、分かりやすいレクチャーのあと、協力してボートを漕ぐことで、一体感を感じることができ、大変好評でした。天王崎公園への帰路も、時間の制約がありますので、遅れた艇は、順次、先頭まで曳航し、さらに最後尾の艇を、順次、先頭まで曳航するという方法をとりました。子どもたち全員、できるだけ自力で戻ろうと頑張り、いくつかの艇は、一度も曳航することなく、完走することができました。



天王崎公園到着後は、アイスや豚汁を食べて、疲れを癒しながら、水上バイク乗艇体験です。子どもたちは、ヨットとは違うスピード感に歓声をあげて、水辺のスポーツの楽しさを感じていました。その後、茨城県立白浜少年自然の家に戻る前に、あそう温泉白帆の湯で、温泉と景色を楽しみました。

茨城県立白浜少年自然の家に戻り、夕食を摂ったのち、19:00からはナイトハイクです。安全のため、チェックポイントにおとな男性を配置して、赤チーム、青チーム、ママさんチームが順次出発します。満月にもかかわらず、木立ちの中は暗く、ライトを照らしながら、探検気分でコースを周りました。その後に、食堂でミーティングおよび懇親会を開催しました。ミーティングでは、子どもたちに、今日一日頑張ったこと、楽しかったこと等を話してもらいました。セーリングピクニックは、かなりのロングランでしたので、子どもたちの達成感も相当なものだったのでしょうが、一番人気は、水上バイク体験で、良い思い出ができたようです。おとな達の懇親会では、どうすればジャンボリーをもっと楽しく、盛り上げていけるのかと真剣に話し合い、たくさんの貴重な意見をいただきました。



□ 5月5日（金、子どもの日）

6:30 起床、出発の準備や寝具の片付け、部屋の掃除

7:00 つどいの広場でラジオ体操

7:30 朝食

8:00 退所式

9:00 天王崎公園に向けて出発

天王崎公園に着くと、快晴には恵まれたものの、水面の色がかわるほど強風です。水上活動は中止として、子どもたちも一緒になって、カレーづくりをしました。今までと同様に、赤チームと

青チームで分担をしようとしたが、子どもたちから、女子チームと男子チームがいいとの声があがり、同性のチームで楽しく協力しあいました。

かき氷を食べ、お腹いっぱいカレーを食べたのち、閉会式です。麻生ヨットクラブの内田代表、岡里氏からのご挨拶をいただき、楽しかった3日間のジャンボリーの幕を閉じました。



今回のジャンボリーでは、ヨット技術の向上だけでなく、さまざまな水辺のスポーツを、子どももおとなも楽しむことを、大きなテーマの一つとして準備を進めてきました。また、ヨットの搬送が難しい方でも参加できるよう、チャーターボートを多数用意いたしました。そして、開催当日は、麻生ヨットクラブの全面的なご協力により、運営体制を整えて、計画どおりの活動が実現できました。また、新たな試みとして、水上運動会やセーリングピクニック、潮来市立ポートセンターあめんぼでの漕艇ボート体験を取り入れ、子どももおとなも、参加者の全員に楽しい思い出をご提供できたのではないかと思います。

そして何よりも、麻生ヨットクラブの皆様には、事前準備の段階から後片付けまで、縁の下の力持ちとしてご尽力いただきました。そのほか、ジャンボリーを支えて下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます。そして、参加者の皆様、連休のお忙しい中、ジャンボリーにご参加いただいたことを改めてお礼申し上げます。次回もより一層楽しく、有意義なイベントを企画いたしますので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

